

令和7年度 はばたきハウス地域連携推進会議 会議録

開催日時	令和7年12月16日 10:00~
場所	はばたきハウス1号館 食堂にて
出席者構成員	利用者 M様(男性)、M様(男性)、O様(女性)、N様(女性)
	T様
	利用者家族 F様 F様 (体調不良のため欠席)
	地域の関係者 NPO 法人一貫洞 サービス管理責任者 U様
	福祉に知見のある方 社会福祉法人 東温市社会福祉協議会 東温市基幹相談支援センター W様
	サービス管理責任者 井上 サービス管理責任者 三上 サービス管理責任者 三宅
	生活支援員 土井 書記 上田
地域連携推進会議の趣旨	利用者と地域との関係づくり、地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進、施設等やサービスの透明性・質の確保、利用者の権利擁護等を目的に、事業所において地域の方等の外部の方を構成員とした会議体を設置し、会議の開催・構成員による施設訪問を実施。 また、コロナ禍以降少なくなっていた家族様や地域の方々の施設への訪問の機会とし、施設の運営へのご意見を伺う。

会議内容
1. 会議の目的（司会説明） <ul style="list-style-type: none"> 入所施設の閉鎖性を解消し、外部（地域、保護者、関係機関）の目を入れることで、透明性の確保、権利擁護、支援の質の向上を図る。
2. 議事内容 <p>(1) 事業概要およびグループホームの現状報告（サービス管理責任者井上）</p> <ul style="list-style-type: none"> 利用状況：総利用者数114名。13か所のグループホームと短期入所、5つの日中事業所、指定特定計画相談を運営。 今年度からの新規取り組みとしてきよハウスの運営：一人暮らしに向けたグループホームとして今年度より開始。2名が入居し、自炊や自立した生活を支援。 費用面：家賃、食材費、光熱水費、共益費を合わせ、月額約5.0～6.4万円で推移しており、利用者ニーズに応じた個別設定も実施している。 ICT活用：数年前より順次Wi-Fiを整備。ただし、順次整備中だが、建物構造やコストに起因する未設置のグループホームもあるため、その解消が今後の継続課題である。 <p>(2) 地域連携および構成員からのはばたき園に対するご意見</p> <p>①家賃・経費の妥当性について</p> <ul style="list-style-type: none"> 相場として妥当であり、安めであること。近隣地域では大体年金で暮らせるような設定の施設が多い。（東温市社協W様）

②地域との関係について

- ・ 日常的な挨拶や交流、秋祭りの御神輿受け入れ等を通じ、良好な関係を構築している。(NPO 法人一貫洞 U 様)

③最近入所した利用者の方について

- ・ 高校卒業後、在宅で利用していた利用者の方について、入所後に自立心が芽生え、買い物訓練やレクリエーション参加を通じて大きく成長している事例が共有された。当初は短期入所を利用していたが、自らの希望によりグループホームの入所の予定を早め、自立を目指している。(東温市社協 W 様)

(3) はばたきハウス利用者からのご意見（意見交換）

①Wi-Fi 環境について

- ・ YouTube やゲーム利用に不可欠である。(利用者 M 様)
- ・ ショートステイ希望者からも Wi-Fi の有無が重視されている現状がある。(サビ管井上)
- ・ 日中事業所でも休み時間など、Wi-Fi を利用している利用者多い。また、入所しているグループホームでは自分で契約している利用者もいる。(NPO 法人一貫洞 U 様)

②娯楽の充実について

- ・ 女性利用者の中では、Wi-Fi を使いたいという意見はあまりない。ただ、テレビをよく見るのと、無課金だと視聴に大幅な制限が入る CS 放送（アニメや音楽番組）の視聴機会を増やしてほしいとの強い要望があった。(利用者 O 様、N 様)
- ・ 外出・旅行について、「推しのライブ（韓流アイドル等）に行きたい」「福岡ペイペイドームでソフトバンクの試合を観戦したい」といった具体的な希望が出された。(利用者 O 様、N 様)

③はばたきバザーについて

- ・ 先日開催された「はばたきバザー」について、飲食物（いなり寿司、焼き鳥、キッチンカー商品）が早期に売り切れたため、次回の增量を求める声が上がった。(利用者 M 様)

(3) 利用者家族からのご意見

①保護者同士の接点

- ・ コロナ禍で家族会（青山会）が解散し、保護者同士や施設職員（個別担当以外）との接点が減少している。また、親がいなくなった後、利用者が楽しみにしている帰省などへの対応への不安がある。(利用者家族 T 様)
- ・ 新たな家族支援の形として、役員等の負担が大きい家族会の再編もあるが、他の選択肢として、後見人制度などの勉強会や茶話会などを組み合わせた、気軽に参加できる場の提供が提案された。(東温市社協 W 様)

②施設の雰囲気について

- ・ コロナ禍を経て久しぶりに開催された「はばたきバザー」に参加し、非常に良い取り組みであると感じた。当日はあいにくの降雨であったが、このような行事はぜひ毎年継続して開催してほしい。また、バザーや本日の会議で久しぶりに来園したが、利用者の方々の様子を含め、園全体が非常に良い雰囲気であると感じた。(利用者家族 F 様)

職員がしっかりと対応してくれているため、現状において施設への特段の要望はない。

(4) はばたきハウスより、今後の対応について

- ・ CS 放送導入を検討します。(料金面、設備面を含めて)
- ・ 目安箱をさらに活用し、利用者からの要望を伺う機会を継続する。
- ・ 保護者会に代わる勉強会など、保護者が集まりやすい場づくりについて園長を含め検討する。
- ・ バザーでの早期完売を受け、次回は参加者が希望の品を購入できるよう在庫管理を改善する。

(5) 閉会

- ・会議終了後、グループホームの見学を実施。現場にて日ごろの日課について説明し、共有部分(食堂など)を見学。

総評

- ・本会議を通じ、外部（地域・保護者・関係機関）の視点を取り入れることで、運営の透明性と支援の質の向上に向けた有益な示唆を得ることができた
- ・コロナ禍を経て、食事を食堂でとるか居室でとるかを利用者の方の意思で選べるようにしたことや、就労者の生活リズムに合わせたきよハウスでの柔軟な支援が、利用者の自律的な生活に繋がっていると改めて感じた。
- ・東温市から入所された方のケースを相談支援の観点から聞くことができ、自らグループホームに入りたいという意欲の変化や、買い物支援を通じた成長の報告を聞き、施設が自立の一助となっていることに大きなやりがいを感じることができた。
- ・家族会の解散により、保護者の方同士や施設全体との繋がりが希薄化している現状が浮き彫りになった。個別の担当者だけでなく、施設全体で保護者の方と関わるような仕組みの再構築が必要であると感じた。
- ・はばたきバザーをコロナ禍以降 6 年ぶりに開催したが、保護者の方や地域の方など多くの方が足を運んでいただき、その雰囲気についてもいい評価をいただけた。定期的に施設に入っていただく重要性が分かった。また、地域のお祭りへの参加など、利用者の方が地域の一員であることを実感できる機会が大切であると感じた。
- ・今まで関りが少なかった東温市社協の相談員の方が入っていただいたことにより、今回の会議を通じて、相談員の方との情報共有や、他地域の事例を学ぶことの重要性を強く感じた。
- ・後日、参加した利用者の方より作業班の担当職員へ会議について以下の話があった。

「井上さんの話（会議冒頭にあった、サビ管からはばたきハウスについての料金など説明）を聞いて、私は、ここで暮らすのに 4 万円もかかっているのだと認識した。日ごろ頑張っている日中活動の作業の意味や、グループホームでの金銭管理、実際の買い物支援など、日ごろ担当職員としているお金の話の意味がわかりました。また、私は今後何をしたらいいのか分かった。また参加したい。勉強になりました。」

会議に参加し、サビ管や地域の方、今まで話したことのない専門職の方との話を聞いて、日頃の活動と生活コストの関連が「点と線でつながる」体験となり、意欲向上に寄与した。また、それにより日中活動へのモチベーションアップに繋がっている。

のことから、職員側の日ごろの支援についても説明の方法など工夫をし、利用者の方がより理解ができるよう努めなければならないと感じた。

- ・また、利用者の方の普段見れない一面や聞いたことのない要望（アーティストのライブに行きたいなど）を、潜在的なニーズを聞くこともでき、支援に対する意識が高まり、新しい支援の形を考える機会となった。地域連携推進会議を開催の意義を感じることができた。